

AIを超える人間になるために

病院長 小 阪 真 二

最近、生成AIが話題になっています。ChatGPTをいかにうまく利用していくかがこれからの課題になるだろうと思われていますが、AIは万能ではなく、できないこともあり、また間違っただけをすることもするという特性をよく理解する必要があると思います。

先日、ChatGPTが「看護師は女性の仕事の一つだ」、とジェンダーバイアスがある答えをしたとの報道がなされました。看護師、教師、保育士などは女性的な職業と認識し、大佐、労働者、数学者などは男性的な職業と捉えているようです。おそらく最近AIの機械学習を使った結果このような答えになったのだと考えられます。機械学習では大量のデータを読み込み、学習することにより、答えを導き出します。現在では、そのような職業に特定のジェンダーの人が付くことが多く、写真等のデータにジェンダーの偏りがあると、そのような答えを導き出すのではないかとされています。現在あるデータを使っている限り、現在存在する偏在や偏見を超えるのは難しいのかもしれませんが。

また、医師国家試験の問題をChatGPTに解かせたところ、GPT-4では正答率が81%だったそうですが、新薬や新興感染症など相対的に情報量が乏しい分野では間違える可能性が高いという結果がでています。やはり、データを学習して答えを導き出すため、情報量が限られていると正答を導き出しにくいなのかもしれません。

「強いAI」「弱いAI」という考え方があります。意志を持ち自分で考えて行動するAIが「強いAI」、決められたことを高精度に行うのみのものが「弱いAI」と呼ばれているようです。まだ意志を持った「強いAI」は開発されておらず、現在のAIはすべて「弱いAI」と考えていいと思います。囲碁や将棋では名人でもAIを使って検討をしているくらい、人を越えた強さを持っていますが、仮想空間の中で大量に対戦を繰り返し、勝つ確率の高い手を選んでいくようです。

前述のように、現在のデータを利用していること、情報量が限られていると正答を導き出しにくいという特性から考えても、これまでと全く違った発想で新しい分野を切り開くのはAIではなく、人間に課せられた使命なのかもしれません。皆さんも突拍子もないと思われるような発想を種にして、新しいものを作ってみる試行錯誤を繰り返してみてください。失敗は成功の母、失敗をしないに越したことはありませんが、失敗を恐れて新しい試みをやめてしまえば、AIに取って代わられてしまうかもしれませんよ。